

ようこそ、なかだの森へ！  
私たちが大切にしていること。

### 子どもにとって『あそび』は生きることそのもの！

日々溢れるおもちゃと情報に埋もれて、幼少期を過ごす今の子どもと親たち... 子どもたちに本当に必要なものは、決められた遊びしかできないおもちゃでも一方的に与えられるだけの知識でもないはず。挑戦なので失敗はつきもの。「危なっかしい」「汚い」「うるさい」と大人の都合で体験を奪ってしまうと子どもが自ら育とうとする力を抑えてしまうことになるのです。」

### あなたは『自分らしい子育て』できていますか？

「あそび」の中で子ども同士のケンカや失敗が大切だと思っても、「迷惑をかけない」ようにと周りの目を気にして、子どもに「うるさくしないの！」「汚しちゃダメ」「いい子にして」とうるさく言わなくてはならない... そんなヘトヘトな毎日を送ってはいませんか？  
子育ては決してお母さん一人ではできません。子育てに関する情報が溢れ、人と人のつながりが希薄になっている現代。子どもも、そして親だってたくさんの温かいまなざしの中で育ちあうことが、今、とても大切だと考えています。

なかだの森であそぼう！

#### ■ 場所 / なかだの森蚕糸公園



日野市日野本町 6-1-88  
駐輪場・駐車場 (100円 / 1時間) あり  
JR 日野駅より徒歩 13分、  
多摩都市モノレール甲州街道駅より徒歩 10分

#### ■ 開催日 / 毎週金曜日・第2,3土曜日 10時～17時

4月	5(金)	12(金)	13(土)	19(金)	20(土)	26(金)
5月	10(金)	11(土)	17(金)	18(土)	24(金)	31(金)
6月	7(金)	8(土)	14(金)	15(土)	21(金)	28(金)
7月	5(金)	12(金)	13(土)	19(金)	20(金)	26(金)

◎開催日が変更になることがありますので、ホームページやブログをご確認ください。

♥マーク：「森の相談室」毎月第3金曜日午前中

★マーク：17時～19時まで小5以上の子どもたちの時間

#### ■ 持ち物 / 水筒、着替えなど

汚れても良い服で  
冬は防寒・夏は虫よけを！  
(詳しくは10ページをチェックしてね！)

#### 開催日には、みんなで「なかだ鍋」を作ってます！

みんなが持ち寄ってくれた具材で野菜たっぷり、栄養満点のお鍋ができるんですよ。冷蔵庫に眠っているお野菜、もやしやコーン缶、ワカメやお肉など、好きなものをお持ちください。量は、ご自分とお子さんの食べる茶碗分が目安です。



お問い合わせ・発行元 NPO 法人 子どもへのまなざし  
【事務局】〒191-0055 東京都日野市西平山 4-18-12  
【電話】042-843-1282 (月～木 / 10時～17時)  
【メール】info@manazashi2009.sakura.ne.jp

毎月、旬な情報をお届けします！



# なかだの森通信 Vol.42

発行 / NPO 法人 子どもへのまなざし  
発行日 / 2019年4月18日

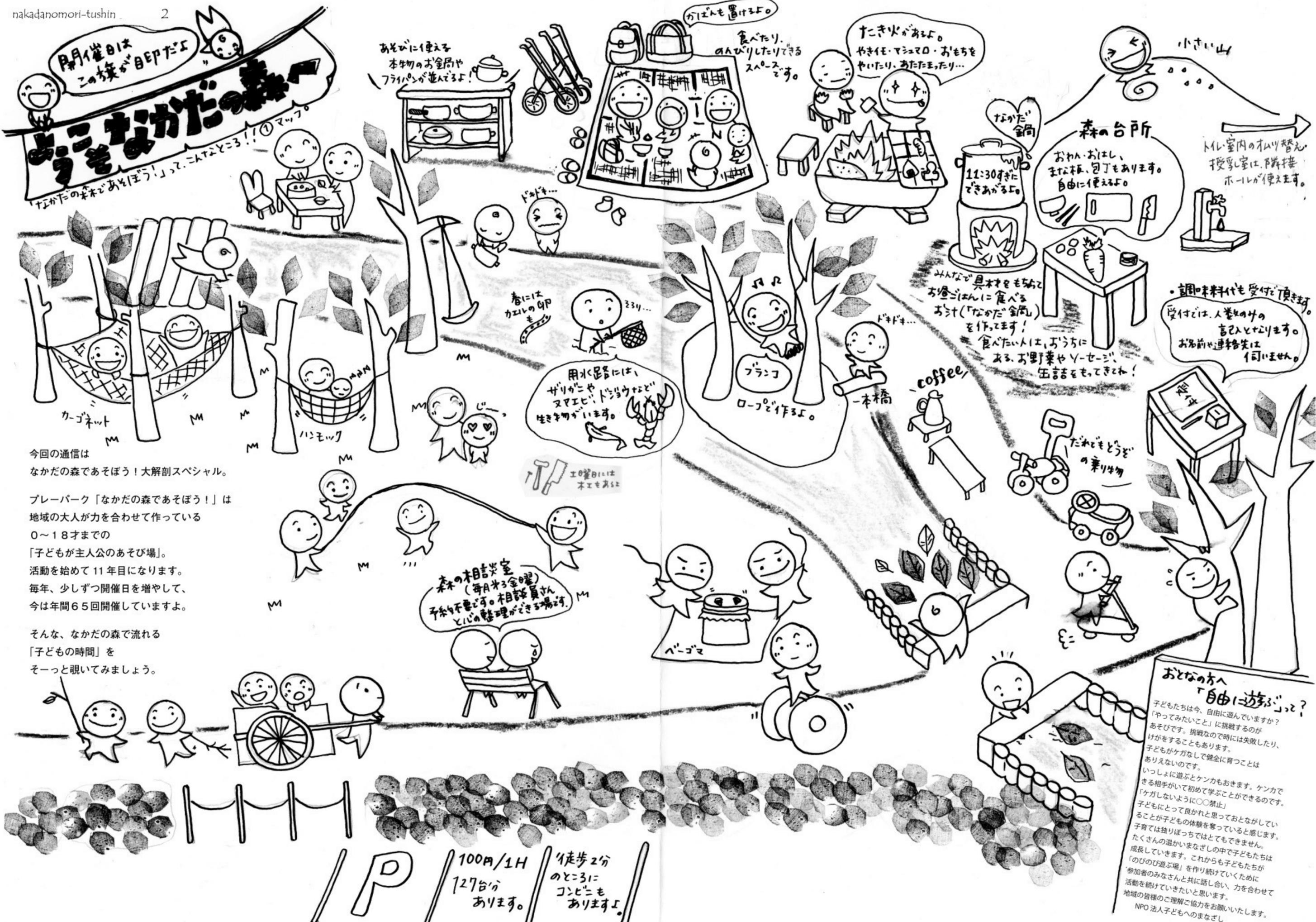


## なかだの森 大解剖 スペシャル

### 目次◎CONTENTS

- 2 特集  
なかだの森 大解剖スペシャル
- 6 連載「母のまなざし」  
おとなって、こどもって
- 7 連載「子どもの時間」  
みんなで育てばいい
- 8 まなざしレポート
- 9 森のスタッフ紹介

■なかだの森通信はイオンモール多摩平の森「幸せの黄色いレシートキャンペーン」で頂いた用紙を使用しています。詳しくは11ページを！



明月催日は  
この森が目印だよ

なかなだの森であそぼう！

「なかなだの森であそぼう！」って、なかなだの森だよ！

あそびに使える  
本物のお金局や  
フライパンが並んでるよ！

かばんも置けるよ

食べたり、  
のんびりしてたりできる  
スペースです。

たき火があるよ。  
焼き芋・マシュマロ・おもちを  
やいたり、あたたまったり...

小さい山

トイレ室内のオムツ替え  
授乳室は、片側片側  
ホールが使えます。

森の台所

おわん・おはし、  
まな板、包丁もあります。  
自由に使えるよ

たき火台

11:30すぎに  
できあがるよ

調味料代も受付可。  
受付では、人数別の  
言入りをいたします。  
お名前と連絡先は  
伺います。

春には  
カエルの卵  
も

334...

用水路には、  
ガリガニや  
アマエビ、トビウオなど  
生き物がいます。

ブランコ

ロープで作るよ

coffee

ただいまどうぞ  
の乗り物

森の木目言葉室  
(毎月3日金曜日)  
予約不要です。相談員さん  
と1対1の整理ができます。

ハンゴマ

おとなの方へ  
「自由に遊ぶ」って？

子どもたちは今、自由に遊んでいますか？  
「やってみよう」に挑戦するのが  
あそびです。挑戦する時には失敗したり、  
けがをすることもありますが、  
子どもがケガなしで健全に育つことは  
ありえないのです。  
いっしょに遊ぶとケンカもおきます。ケンカで  
きる相手がいなくて初めて学ぶことができるのです。  
「ケガないように〇〇禁止」  
子どもにとって良かれと思っておとながしている  
ことが子どもの体験を奪っていると感じます。  
子育ては独りぼっちではとてもできません。  
たくさんの温かいまなざしの中で子どもたちは  
成長していきます。これからも子どもたちが  
「のびのび遊ぶ場」を作り続けていくために  
参加者のみなさんと共に話し合い、力を合わせて  
活動を続けていきたいと思っております。  
地域の皆様のご理解ご協力をお願いいたします。  
NPO法人子どもへのまなざし

今回の通信は  
なかなだの森であそぼう！大解剖スペシャル。

プレーパーク「なかなだの森であそぼう！」は  
地域の大人が力を合わせて作っている  
0~18才までの  
「子どもが主人公のあそび場」。  
活動を始めて11年目になります。  
毎年、少しずつ開催日を増やして、  
今は年間65回開催していますよ。

そんな、なかなだの森で流れる  
「子どもの時間」を  
そーっと覗いてみましょう。

P

100円/1H

127台分  
あります。

徒歩2分  
のとろに  
コンビニも  
ありますよ。



なかなだの森であそぼう！大解剖スペシャル  
このページでは、みなさんからよく聞かれる質問にお答えします！  
森に来る前に聞きたいこと、  
森に来てみて感じたことがあったら、  
いつでも気軽に聞いてくださいね！

### なかなだの森であそぼう！のある金曜日

- 7:30 焚火やロープ遊具の準備などを始めます。  
焚火の火おこしをしたい人はこの時間に来るとできるよ。
- 10:00 森の始まりの時間。雨の日もやってますよ～。
- 16:30 午前中は乳幼児の親子がのんびり過ごします。  
天候や季節によっても差がありますが10時半頃から人が増えてきます。
- 14:30 「なかなだ鍋」が完成するのが  
だいたいこの時間。  
お鍋、できたよ～ の声が合図ですよ。
- 14:30 お昼ご飯の後、少し遊んで、小さい子はそろそろ  
お昼寝タイムかな。お昼寝に合わせて帰る方も多いです。
- 15:30 幼稚園の親子や放課後の小学生たちが遊びに来て、  
一気に森の雰囲気が変わります。  
上の子のお迎えを済ませてもう一度遊びに来る方も。  
乳幼児から大人まで、年齢制限のない誰でもどうぞ  
のあそび場なのです。
- 16:30 少しずつ森は片づけモード。手の空いている大人や  
小学生も片づけを一緒にしてもらいます。
- 17:00 普段は17時で終了ですが、月に1回、  
高学年（小5）以上の子どもたちを対象に19時まで  
開催を延長してプレーリーダーのたもつと過ごします。  
※4年生以下の子どもは帰ります。  
大きくなって来てくれるのを楽しみに待ってるよ！

登録しなくても  
あそびに行、ていいの？

「なかなだの森であそぼう！」はいつ来ても、帰っても大丈夫。  
誰でもどうぞ、無料のプレーパークで、  
0～18才までの「子どもが主人公のあそび場」です！  
登録制ではないので、気軽に遊びに来てくださいね！

ちなみに、もちろん市外の方でも大丈夫！  
近隣の八王子市、立川市をはじめ、  
国立市、稲城市や町田市、相模原在住の  
常連さんもいますよ。  
駐車場は1時間100円です。

あそび道具って  
勝手に行った方が悪い？

「これはお友達のものなんだから、使っちゃダメ！」  
砂場に置いてあるおもちゃを使おうとしたお子さんを制止し  
なげやいけなかったこと、ありませんか？  
森には、使わなくなった本物のお鍋やおたまで並んでいる棚  
があって、みんながここから使いたいものを取って遊びます。  
子どもは本物の調理道具が大好きなので、用水路の水を汲ん  
だり、石や葉っぱを入れたり、大人気。あそびも広がります。  
※使い終わったら棚に戻してね。

お昼ごはん、  
みんなどうしてるの？

お昼にはみんなで森のお鍋（なかなだ鍋）を作って食べます。  
食べたい人はお鍋の材料と50円（調味料代）を  
お持ちくださいね。

「なかなだ鍋」はみんなが持ってきてくれる具材が  
たっぷり入ったお汁です。  
「朝から頑張ってお弁当を作らなくても、  
おにぎりや野菜を持ってこるだけで  
一日遊べるようにしたいね」  
という母たちの声から始まりました。  
でも、おにぎりも作れないくらい疲れてる日もありますよね。  
そんな日は、白いご飯をお弁当箱に詰めるだけでも大丈夫♪  
野菜もそのまま持ってくれば、森で切れますよ～。

家で親子だけで食べるより  
みんなで食べるとなんだか美味しい。  
こぼしたって、外だからへっちゃら♪  
「ちゃんと食べる」より、楽しく一緒に食べましょう♡

そもそも  
「プレーパーク」って何？

1940年以降、ヨーロッパを中心に広がった  
冒険あそび場（プレーパーク）。  
日本では1970年ごろから草の根的に全国に広がりました。  
子どもが「あそび」を創るあそび場が「プレーパーク」。  
火を使ったり、地面に穴を掘ったり、  
木に登ったり、何かものを作ったり…  
自分の「やってみようと思うこと」  
を実現していくあそび場です。  
様々な遊びが展開されていくので  
変化し続けるあそび場とも言えます。  
制止するのではなく、一緒に考えてやってみる。  
のびのびと思いつきあそべるこの場所は  
子どもが生きる力を育むことを支えています。

自分の家の近くにプレーパークがあるかな？  
プレーパークのことをもっと知りたい！という人は…  
 日本冒険あそび場づくり協会  
をチェックしてみてくださいね！

せっかく来たんだから  
もとのびのびあそびは  
いいのに…って思っちゃったの。

一見ボーっとしているように見える子ども、  
よく観察していると、風の音に耳を澄ませていたり、  
炎の動きをじっと見ていたり、  
他の子のあそぶ様子を観察していたり…  
そして、それはすでに、五感をフル回転して  
その子なりのあそびなのです。  
あそびには「良いあそび」、「悪いあそび」はありません。  
その子の「やってみよう！」全てがあそびなのです。  
親から離れてのびのび遊んでいる子を見ると、  
つつい羨ましくなっちゃうけど  
静かに観察しているのは、次の一歩への準備かも。  
その子のペースと一緒に大切に目守っていきましょう。

なかなだの森には、子どものありのままを  
あたたかく見守るスタッフがいます。

ボランティアスタッフ  
様々な立場や世代の大人が力を合わせて  
「子どもが主人公の居場所」を創っています。

プレーリーダー たもつ  
子どもの主体性を尊重する関わりを実践する大人  
あそび環境を整えたり、創り変えたり  
あそび場づくりの中心となるスタッフです。

ろちゃん さすけ  
ちょこちゃん りかさん  
ひろみん ひさこさん  
ゆきちゃん

楽しむ  
大人だって「やってみよう！」  
に挑戦しています。  
一人ではできないことも、  
声を掛け合ったら  
実現できちゃうかも…！！  
野外ならではの楽しみ方を  
たくさんの人を巻き込んでチャレンジ！

染め物実験室  
おもちつき  
お母さんたちがみんなと寛いだり、チャレンジして  
楽しむ後ろ姿をきくと我が子も見えています。  
さて、今年度はどんな楽しみ方が生まれてくるかしら…！？

木と空にはおぼろげな  
歩けるように「あそび」の  
いいかな？

風の音、葉っぱや火の揺れる様子、お母さんの  
楽しそうな顔、子どもたちの遊ぶ声、焚火のにおい…  
まだ歩けない赤ちゃんでも、森に来るだけで  
いっぱい刺激を受けています。  
落ち葉や土の上をハイハイするのもいいですよ！  
赤ちゃんがネンネしたら、お母さん同士  
森のコーヒーでも飲みながら  
おしゃべりも大事な時間ですね。

～6月から桑ハウスの  
改修工事がはじまります～  
工事に伴って「なかなだの森であそぼう！」の活動エ  
リアが変わります。倉庫の場所、焚火の場所、ゴザスペ  
ースなどを工事に支障のない場所に移動するので、「あそ  
び場」ももっともっと面白くなるように、そして森が  
もっと居心地の良い空間になるように、皆さんと一緒に  
に工夫していきたいと思っています。  
工事の期間は一年半。工事期間中も途切れることな  
く活動を続けていきます。そして、活動が変化しても、  
「子どもが主人公の居場所」や「親子もあたたかいま  
なごしの中で育ちあう居場所」を創り続けたい！とい  
う気持ちは変わりません。  
「いつか行ってみたいなあ」と思っていた皆さん、  
ぜひこの機会にあそびに来てくださいね！  
お待ちしております。(ユキコ)

# 子どもの時間

季節や天気で日々変わっていく自然を  
まるごとフィールドにしている野外保育「まめのめ」。  
今年、大学を卒業して野外保育「まめのめ」に  
スタッフとして飛び込んだななちゃんが  
感じた『子どもの時間』とは…

寒い寒い冬がやってきました。「まめのめ」の夏はまさに修行でしたが、冬もなかなか強敵。

でもそんな寒さも「まめのめ」の子ども達といるとへっちゃらに感じる時があつて。横一列に並び「アア～」と叫びながら下り坂を何度も駆け下りる時とか、黒焦げた焼きみかんを「あっちいあっちい」と言いながらみんなで剥いている時とか、寒さの中に暖かい陽だまりを見つけた時とか。

子どもは風の子！

この一年を振り返るとそれぞれの季節の面白さ、大変さを子ども達にずいぶん教わったなあと感じます。

一年前、「まめのめ」にスタッフとして来たばかりの4月、保育スタッフとして居る以上“ちゃんとした大人”でいなきゃなと思っていました。

にしてもちゃんとした大人ってなんだろうと思っていた私は、その頃子ども達に、「ななちゃんて子どもなの？大人なの？」と、とてつもなく聞かれ、うろたえ、24歳という結構大人な歳のくせして、「大人と子ども半分ずつかなあ。」となんともあいまいに答えていました。

「まめのめ」で働きながら、色んな人達と出会い、子どもって？おとなでいるって？ありのままを受け止めるってどういうことだろう？と考える様になりました。

毎日、子どもたちと向き合っていると、時に大人である自分はどこへやら、「今のは、子どもっぽかったなあ。」と自分の言動に落ち込むこともあります。また、子どものありのままを受け止めたいと力を入れるほど、自分の思う正しさや期待、理想がついてきてしまい驚いたり、経験からの見通しがつかない分これでいいのかと不安になったりします。

— Episode25 おとなって、こどもって —

はたまた、そういった自分の子どもっぽさ（未熟さ）とはまた違う、自分の中にある子ども心を刺激されることもよくよくあります。

この間も「まめのめ」で出掛けている時、子ども数人とどこへ続いているかわからない道を発見！なんだかとなりのトトロに出てきそうな雰囲気。もうすぐ「お弁当だよー！」と声が掛かる予感もするけれど、子どもたちは「オレ先ね！」「どこに出るんだろう。」ともう行く雰囲気。見つけちゃったもんなあ・・・と進む私。

行ってみたらやっぱり面白くて。そうやって自然と、子どもたちの発見に自分も発見したかの様にドキドキしたり、面白い遊びに時間がくるまで夢中になったりするの自分の中に子ども心があるからで、それって大切だなあと感じます。

「まなざし」には、子ども心を大事にしたまま大人として子どもの側にいる人達がいます。だからその場にいる子ども達はその存在や距離感に安心して自分自身ありのままにそこにいられるのだろうなと思います。

日々、まだまだ未熟な自分や自分の感情、また、子ども心に気付かされる中で、初めの頃に思っていた“ちゃんとした大人”ではなく、子ども達がありのままにられる大人になれる様、「子どもたちのまなざし」からひとつひとつ学んでいきたいなと思います。これからもどうぞよろしくお願いします。

(野外保育「まめのめ」スタッフ ななちゃん)

# 母のまなざし

一人ぼっちで子育てしている気持ちになってしまうこと、ありませんか？  
親も子も、「あなたのままでいいんだよ」と  
あたたかく受け止めてもらえる場がもっと増えれば  
もっと孤独を感じずに子育てできるのかもしれない。  
今回はなかだの森常連のようちゃんが今の気持ちを書いてくれました。

「みんなで育てばいい」

3カ月前、代表のひろみさんにそう言葉をかけていただき、我が家の森通いは始まりました。

里帰りて娘を出産して自宅に戻ったとき、息子は2歳を目前にしてイヤイヤ期に入ったところでした。そこに赤ちゃん返り、大好きな外遊びが満足にできないストレス、引っ越しが重なり、毎日が大変でした。私自身も、育児がうまくいかないイライラを息子にぶつけてしまうことがしばしば。

初めてなかだの森へ足を踏み入れた去年の秋、気づくと息子は用水路の中でした。お兄ちゃんたちを追いかけ、捕まえたザリガニやヤゴ、エビ、タニシに興味津々。

あっという間に森に溶け込んでしまった息子は、三輪車やリヤカーでお友達と雑木林の中を走り回ったり、拾ったどんぐりや落ち葉でおままごとをしたり、思うままに目一杯遊んでいました。

子どもの遊びの発想は信じられないほど面白いし、満足気な息子を見ていると、私も幸せな気分になります。そんなこんなで、今では親子でなかだの森の魅力にすっかりはまってしまったのです。

以前は失敗することを嫌がり、ハードルが高いことや初めてのことを前にすると癩癩を起こしたり、あきらめたりしていた息子が、森の中では色々と挑戦できるようになりました。

転んだって「大丈夫」と言ってひとりで立ち上がるし、ハンモックは助けなしで高いところまでよじ登り大胆に揺らせるようになりました。

苦手だった葉物野菜は“なかだ鍋”ですっかり克服され、怖かった焚火も、今ではマシュマロや焼き芋を食べるための必需品です。

— 「みんなで育てばいい」 —

お気に入りの三輪車が壊れてしまっても、泣かずに考え、お兄ちゃんの手を借りながら他の道具と連結させて乗れるようにだってします。

時々足がすくむこともありますが、できることとできないことを自分で考えているようにも見えます。森にいと「それでもいいんだよ」と、あるがままの姿をあたたかく受け止めてくれるまなざしが沢山あるからだと思います。

そして、私自身もそうでありたい、と気づかせてもらいました。

「なかだの森に行き始めて(息子も私も)変わったね」そう周りに言われると、嬉しい気持ちになります。最近ではご近所さんとのやりとりも増え、井戸端会議では育児のアドバイスをもらうこともあります。息子と娘は時々親を離れ、遊びにお邪魔したり夕飯やお風呂をご一緒させてもらったりしています。時には自分の子や孫のように叱ってくれることもあります。

そんな人生の先輩方に励まされながら、私たちの子育ては大いに支えられています。

「みんなで育てばいい」

今になり、その意味の深さに気づくことができました。子どもと一緒に親も育ててもらえていることに感謝の気持ちを忘れず、私も誰かの支えになれたらなと思います。

書いてくれた人 ようちゃん

3才男子、1才女子、元気な二人のお母さん。  
森の常連さんです。

ようちゃん自身も小学校から社会人までずっとバスケットをやっていたそうです。  
ようちゃん、運動神経良さそうだなあと思ってました…。



【お知らせ】今年度もまなざし講演会を開催します！  
 講演会「この子は育てにくい、と思っても大丈夫  
 —生まれてきてくれてありがとう子どもに伝えたいあなたのために—」

**5/18**  
Sat



子どもの将来を考え、丁寧に子育てしてきたつもりなのに  
 なぜか自信を持ってなくなったり、不安な気持ちに駆られてみたり  
 30年以上様々な子どもやお母さんたちに関わってきた  
 星山麻木先生のお話を聞きながら、  
 子どもにとって本当に大切なこと、一緒に考えませんか？

**5月18日(土) 10:00~12:00**  
 於：仲田の森蚕糸公園  
 (雨天の場合は隣接するふれあいホール2階コミュニティルーム1)  
 講師：星山 麻木先生  
 (明星大学教育学部教育学科教授・保健学博士)  
 無料・申し込み不要の講演会です。

※この講演会はお子さんと一緒に参加できますが、しっかり聞きたい場合は大人の方だけの参加をお薦めしています。  
 ※当日はなかだ鍋がありません。午後もあそぶ方は、各自お弁当をお持ちください。

わたしと二人だけになると  
 男の子は、そっとやってきて  
 「あのね……お母さん、ぼくのこと嫌いなんだよ……」  
 「そう？」  
 「だって、お母さんって、ぼくを怒ってばかりいるんだ」  
 「そうなの？お母さん、〇〇くんのこと好きだと思うけどなあ……」  
 「先生から電話がかかってきて、お母さんがぼくを怒って、  
 そのあと、お母さん泣いちゃうんだ。  
 ぼくなんて生まれてこなければよかった」

ぼくなんて、生まれてこなければよかった……

心優しい子どもたちから、なんどこの言葉を聞いたことでしょう。  
 「お母さん、〇〇くんのこと、とっても大切だと思っている。  
 だから今日、ここに来ただよ、きっと」  
 そう言っても、男の子は、黙っていました。  
 お母さんと二人になりました。  
 「どうやら〇〇くんは、お母さんに嫌われている、と誤解しているみたい。  
 お母さんの本当の気持ちは伝わってないのかなあ……」  
 お母さんはびっくりしたように空を見つめていました。  
 が、やがて涙がぼろぼろと落ちてきました。

(星山 麻木氏著「この子は育てにくい、と思っても大丈夫」より)

今回の講演会のタイトル  
 「この子は育てにくい、と思っても大丈夫  
 —生まれてきてくれてありがとう  
 子どもに伝えたいあなたのために—」は  
 星山麻木先生の著書をそのまま  
 使わせていただきました。  
 子どものことだけでなく、  
 自分のこともあたたかく  
 包んでくれるような一冊です。



様々な立場や世代の大人が力を合わせて、なかだの森を開催しています。  
 このコーナーでは、子どもがのびのび遊べる居場所を支えているなかだの森に集う人を  
 毎回、一人ずつ紹介していきます。

今回は… **ひさこさん**

森のボランティアとして、子どもの育ちやお母さんの気持ちに寄り添っている  
 ひさこさん。柔らかい物腰と優しい口調で、話していると、あたたかい気持ちに  
 なります。

Q. 森でボランティアをすることになったきっかけは？  
 A. 長年、子どもと子育て中の人に関わる仕事をしてきましたが、退職しました。  
 退職して初めて感じた不安感、ぼっかり穴が空いた感じ。  
 そんな時、「森に来ない？」と誘ってもらいました。自分にとっ  
 て安心できる居場所があるというのは、人を元気にしてくれるん  
 だなあと感じています。



Q. ひさこさんにとって森はどんな場所ですか？  
 A. 私らしさを見つける場であり、自然の中でハラハラ・ドキドキしながら  
 生きる力、エネルギーの充電となり、私の学びの場だと感じています。

お母さんは一人で頑張らなきゃ！  
 と思ってしまうけど、  
 頑張りすぎなくていいのよ、と思っています。  
 話し相手がほしい時、私で良かったら  
 声を掛けてくださいね。

表紙の写真  
**「どうぞのイス」**



いつだって子どものあそびは想定外。  
 大人が固くなった頭で考える「イスは前を向いて座  
 るもの」なんて常識をひっくり返してくれます。  
 子どもは今を生きています。  
 今、おもしろい！と思ったことに全身でチャレンジ。  
 自分で考えた「おもしろいこと」ワクワクの体験を  
 積み重ねています。そんな姿を嬉しく見守る大人の  
 輪をこれからも広げていきたいですね。



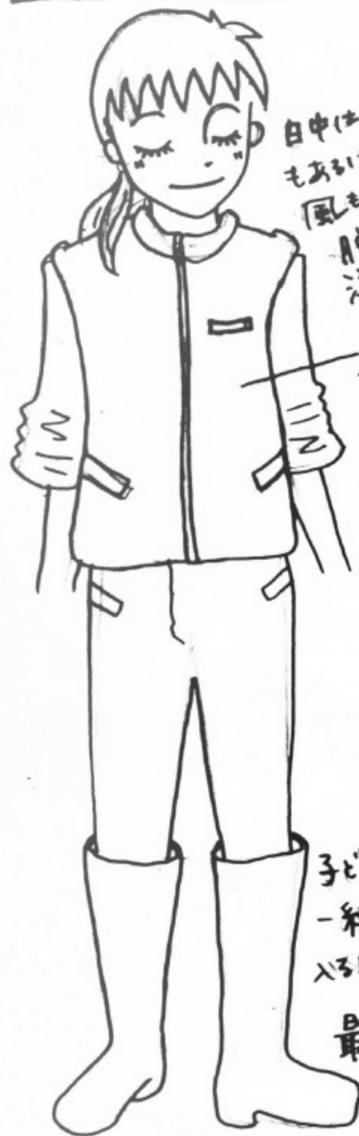
今、子育てしていて  
 感じていること、  
 子どもに関わっていて  
 感じていること、  
 ぜひ教えてください！

**森のーと**  
 編集後記

最近、私の娘（この4月で中学生）は、昨年  
 あたりから、学校の友達となかだの森に遊びに  
 来るが増えてきました。  
 その中でも楽しみにしてるのが19時までの  
 取り組み。森開催後の17時以降、高学年（小  
 5以上）の子どもたちが過ごす時間です。  
 3月最後の森では、プレーリーダーのたもつの  
 誕生日と卒業祝いのパーティーをしたらしい。  
 思えば、娘は11年前の1才の時から、この「なかだの森で  
 あそぼう！」で遊んできました。この森のスタッフや子育て  
 仲間に見守られながら育ってきました。  
 小学生になってから、森に行く機会が減っていたけれど、  
 最近になって学校とは違うありのままの姿でいい場所と  
 して、なかだの森が大切な場所になっているんだなあと感じ  
 て、私も嬉しくなります。  
 思春期を迎える子どもにとって、ありのままの自分でいら  
 れる居場所、ふらっと立ち寄れる居場所がとても必要なんだ  
 と実感している今。  
 皆さんは、中学生の頃、高校生の頃、そんな居場所があり  
 ましたか？いつか森でそんなはなししてみたいなあと思う  
 この頃です。(ユキコ)

# 木のファッションチェック —春編—

暦ではまだ春ですが、暖かさに誘われて  
森では水遊びをする子どもが増えてきました。  
森の用水路では、オタマジャクンもそろそろ現れそうですよ。  
気温が変わりやすいこの時期。  
親も子ども、外遊びの時は調節しやすい服装が便利です。



日中は暑いくらいの日  
もあるけど、朝・夕は  
風も強くて寒いから  
脱ぎ着しやすい  
洋服がオススメです。

子どもも大人も  
フリースのベストがあると、  
調節しやすいよ。

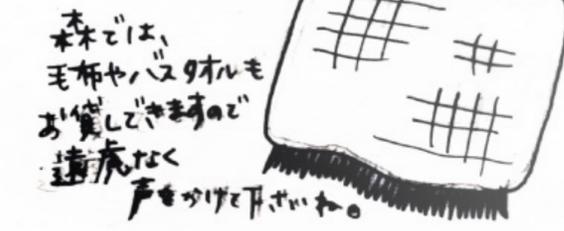


ウインドブレーカー  
もあと便利です。

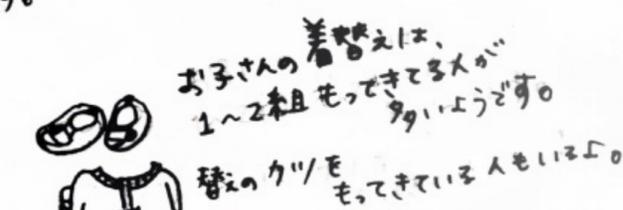
子どもに手を引かれて  
一緒に用水路に  
入る時、長靴が  
オススメですよ！  
最近、カワイイもの  
たくさんありますよ。



下の子ども連れてくる  
お母さんも多いですよ。  
お昼寝用は  
あたたかくしてくと  
安心かも。



本木では、  
毛布やバスタオルも  
お貸しできますよ。  
遠慮なく  
声をかけて下さいね。



お子さんの着替えは、  
1〜2本ほど持ってきてあげようですよ。  
替のソックスも持ってきている人もいますよ。



もう引いたら  
蚊の季節も  
お昼寝の日にも  
あと便利です。

## 私たち「NPO 法人 子どもへのまなざし」はこんな活動をしています

子どもを真ん中に考える社会へ。  
今を生きる子どもたちにとって本当に大切なこと、あなたと一緒に考え続けたい。

### なかだの森であそぼう！

子どもが主人公の居場所を創り続けよう！「なかだの森であそぼう！」は日野市の子ども・子育て新制度「新！ひのっ子すくすくプラン」の中の重点的取り組み「遊び場の充実」として位置づけられています。

- 毎週金曜日・毎月第2・3土曜日
- 詳細は裏面をご覧ください

### 野外保育「まめのめ」

日野にある森や川、丘を中心に季節や天気で日々変わっていく自然を丸ごとフィールドにして体験と感動を繰り返しています。

- 月～金
- 対象：2才～就学前の子ども
- 現在、園児募集中です。

### あそべ！子どもたち！事業

子ども時代のあそびをもっと自由に！もっと豊かに！『子ども時代のあそびを保障するための取り組み』として、あそびを通じた育ちと体験の場づくりを実現するための事業です。

- 夏、秋、冬に定期開催しています。

詳しくはホームページをご覧ください。  
[子どもへのまなざし](#)

## 私たちの活動は、共感して下さる皆さんの応援に支えられています。

### 寄付で

活動を続けていくには、活動資金の支えが必要不可欠です。  
<寄付の用途が選べます>  
ご寄付 1口 1,000円  
<より繋がりたい方へ>  
応援会員 3,000円/年  
■HPよりクレジット決済できます！

### 正会員

当団体の理念を実現していく仲間です。NPOの議決権を持っています。  
6,000円/年  
■HPよりクレジット決済できます！

### 買い物で

なかだの森通信の用紙1年分を  
購入することができました！！  
イオンモール多摩平の森で毎月11日にレシートを「子どもへのまなざし」ボックスに投函すると、合計の1%相当の物品が贈呈されます。

### 情報シェア

私たちの活動を「いいね！」して頂いたり、SNSでシェアして頂くだけで、私たちにはとても大きな応援となり、社会を変える一歩となります。

## もりだより

子どもの頃、お餅つきしましたか？  
リズムカルなお餅つきと合いの手に  
子どもたちも興味津々です。  
白と杵の重量感。漂う湯気。  
角餅とは違う、絵本のようにびよーんと伸びる温かいお餅。  
おいしいきな粉やあんこ。  
私たちがそうだったように、  
今の子どもたちももちつきが大好きです。  
今年もにぎやかになかだの森でお餅つきをしましたよ。



多くの方に支えられて活動しています  
正会員、応援会員、ご寄付を下された皆さまの力で活動できています。いつも応援いただき、本当にありがとうございます！

正会員	4	人
家族会員	7	人
応援会員	23	人
ご寄付	10	人 / 5 団体 (企業等含む)

(計 237,318 円)  
※平成 31 年 12 月～4 月の間に、会員、ご寄付を頂いた方の人数を集計しています。

■寄付・会員お申し込みは、当団体 HP から  
または、  
郵便振替口座 00170-6-449584  
トクコトモ/マガジ  
※通信欄に寄付または会費とご記入下さい。

■私たちは認定 NPO 法人を目指しています  
認定 NPO 法人とは、活動や組織運営の健全さ、団体の公共性、情報公開の透明性などの審査により、「より客観的な基準において高い公益性を持っている」ことを判定された法人で、認定 NPO 法人に寄付をすると税制上の優遇措置があります。認定 NPO 法人になるためには、3,000 円以上の寄付者が年平均 100 人いることが重要な条件の一つとなります。応援、よろしくお願ひ致します。